

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 報徳福祉会
(ユニット名)	グループホーム こころつくし
所在地 (県・市町村名)	新潟県三条市西大崎二丁目4番10号
記入者名 (管理者)	菅家 智美
記入日	平成 21年 2月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『近隣との調和の中で尊厳や権利を損なわず、自主自律のある豊かな暮らしを提供する』という理念を作り上げている。また、具体的目標内容も作り上げている。両方とも、誰でもいつでも目に入る場所に掲示し確認できる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	部署会議、カンファレンスを月に1回以上開催し、職員全員で理念を元にケア内容・行事計画等について話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域会議への参加、地域版広報誌の発行、家族会などを通し、認知症の方が地域の中での暮らす事の大切さを訴え、理解と協力を得られるよう努力している。また、自治会長さんに施設の行事に参加をさせていただいたり、積極的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣へ散歩や買い物に出掛け、こちらから挨拶をするよう心掛けています。また、近隣の方がボランティアに来てくださり、日常的につきあい、良い関係ができています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会参加、地域の祭りへの参加などを通し、地域の方と交流する機会を多く設けられるよう努力している。また、自治会長が月に1回程度、訪問し、お茶を飲みながら近況報告をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>実習生、近隣の保育園児慰問を積極的に受け入れたり、体操教室を1階会議室で開催している。また、入居者が散歩する際、ごみ拾いを行うなど、持っている力を発揮し、地域と密着して生活できるよう支援している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、自己評価・外部評価を実施する際に、職員に実施する意義を説明している。また、評価内容については、改善に向けて担当を決め、早急に改善に向けての対策内容を決め取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>グループホーム運営推進会議(2ヶ月に1回)を開催し、状況報告を行ったり、サービス評価の取り組みにつての意見を聞き、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>三条市役所と電話・メール連絡や施設長や管理者が訪問し現状の報告や相談を行ったり、役所としての意見を伺ったりし、グループホームのサービス向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に参加し、それを元に部署内で勉強会を開催したり、各自で勉強するなどして、必要時に活用できるように体制を整えている。(現在該当者なし)</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>上記同様。虐待について発見～対応を理解し、防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際、重要事項説明書・契約書を説明後、その内容を噛み砕いた、内容の入居のしおりを活用し、時間を掛けて説明を行っている。また、家族の不安や疑問を理解し、十分な話し合いを行い、両者が納得できるよう努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者と信頼関係を作り、話しやすい環境を提供している。また、ボランティアさんからも情報提供に協力して頂いている。それらの意見を記録に残し随時会議で話し合い、改善に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に(月に1回)、随時(状態変化時)に家族に手紙や電話連絡を行い、入居者の状態や家族の状況変化について、情報を常に共有している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者一人ひとりに担当があり、家族との信頼関係が築けている。また、職員全員が話しやすい環境の提供や傾聴する姿勢を持って接するように心掛けている。玄関に意見箱・第三者評価委員を設置しを窓口を設けている。意見については、会議で話し合い運営に反映している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議・部署会議・収益決算委員会議で職員から運営に関する意見を聞き、リーダー会議で検討後、運営に反映している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の都合や入居者の都合、体調、精神状態に合わせ、勤務調節を行っている。緊急時は、他部署からの支援が得られるよう体制を整えている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者・家族にとって馴染みの関係作りが重要であることを理解し最小限に努めている。退職者や異動者が出る場合は、広報誌にて入居者や家族にお知らせしたり、職員同士でカバーし合いダメージを最小限にするよう配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やレベルや意欲を把握しており、入社時より計画を立て、施設内外の研修参加を促している。また、グループホームこころつくし独自の自己評価表を用いて、面談をし目標を明らかにし自己啓発に取り組めるよう進めている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時、研修受け入れ時の同業者との交流する機会を活用し、他施設の良いところを学んだり、当説施設の気付かないところを教えてもらったりするなどの情報交換を行っている。それを施設で発表・検討を行い相互のサービス向上に努めている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設全体として年に2回以上、部署内では3ヶ月に1回程度食事会を開催し、職員とのコミュニケーションを図っている。個々のストレスや悩みを把握し、軽減できるようアドバイスを言ったり、業務改善を図っている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の介護技術・性格・特技などを把握しており、フォローしながら、レベルアップができるよう働きかけている。独自の自己評価表で自己を振り返り目標を設定し向上心を持って働けるよう努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に管理者や計画作成担当者が自宅を訪問したり、本人の見学時に他入居者とお茶を飲んだりし、早期に馴染みの関係作りを心掛けている。本人の気持ちを傾聴し受容する姿勢を持つよう努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様。認知症介護の苦労やつらかった気持ちや入居への不安な気持ちを理解する姿勢を心掛けている。いつでも気軽に相談してもらえるよう関係作りに努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービス内容の情報を提供できるよう、情報を収集するよう努めている。相談者(本人・家族)の最善のサービスが受けられるよう支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、職員が訪問をしたり、本人が見学・お茶のみなどをしたりして、職員・他入居者との顔馴染みの関係作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する際は、あくまでもさりげなく行い、本人の尊厳を損なわぬよう心掛けている。また、家事などを通して本人の力の発揮をして、職員が学んだり、喜怒哀楽を共にして、支え合う家族のような関係が築けている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	随時話し合いの機会を設け、情報の共有化や交換を行い、共に介護する関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に家族でくつろげるような環境を提供したり、必要に応じ仲介に入り、本人と家族がより良い関係を築けるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や外出の機会を設け、馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう支援している。また、その旨を家族にも伝え、協力を仰いでいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の性格・個性を把握しよい関係が作れるよう、言葉掛け・作業の提供などの支援を行っている。また、ソファ・家具の配置により気の合う方が集まれるように細かい居場所を設置したり、一人で過ごしながらも他の人の気配を感じ不安がないよう環境面からも支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の様子を御家族に伺ったり、本人に会いに訪問している。また、必要に応じ家族に相談に応じている。関係を断ち切らぬよう関係を大切にしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い、情報を聞き取ったり、本人の行動から考えられる気持ちを読み取ったりして、一人ひとりの希望や意向の把握に努め実現できるよう支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・他サービス機関へセンター方式シートを活用することの目的・内容を説明し情報提供を求め、本人の生活歴をできるだけ把握しケアに活かせるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに目を向ける事を心掛け、現状を総合的に把握している。また、生活記録(パソコン入力)に細かく記入し、一人ひとりの状態を項目ごと、かつ総合的に確認することができる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式シートのチェックから読み取れる事、本人・家族の意見を反映し、カンファレンスを開催し本人本位の介護計画を作成している。また、本人・家族への説明を十分行い、同意を得ている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的・随時見直しを行っている。状態変化時には、本人・家族に現状を説明しケア内容を変更の同意を得てから、カンファレンスを行い介護計画を作成している。家族・職員全員で統一した意識でケアを実践できている。介護保険についての内容や期間がわかりやすいよう表にして掲示してある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコン入力の為、細かい内容まで記録を残すことができている。入力の際、本人の様子・ケア内容・ケア後の本人の様子を記録するよう努めている。また、職員全員で共有化を図り、実践や介護計画の見直しの際活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じ、併設のデイサービスセンターや在宅支援センターの機能を活用している。(特浴・ダイレク・体操教室など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティア・警察・消防等の地域の方より理解を得て、災害時等の緊急時に協力してもらえる体制を整えている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望者は訪問歯科診療を利用でき、口腔ケアや治療を受ける事ができる。必要に応じ、併設の居宅支援センターのケアマネジャーへ相談している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所のみで解決が困難な状況に応じ、地域包括支援センターと協働できる体制が整っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を優先にし馴染みのかかりつけ医で医療が受けられる。状況に応じ本人・家族の同意を得て、当施設の協力病院で、継続した医療を受ける事ができる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症の専門医であり、状態の報告・相談・受診をすることができ、協力関係が築けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービスの看護職員と相談したり、指示をもらえる協力体制が整っている。また、入居者とも馴染みの関係が築けおり、入居者も安心して生活できる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の看護師・ケースワーカーと密に連絡を取り合い、早期退院に向けて調整を図っている。また、家族とも情報交換を行い退院後の生活にむけて話し合いを行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、管理者より方針について説明し理解を得ている。また、重度化した場合、本人・家族にとって一番良い支援が受けられるよう家族・他施設・医師と話し合いを設け方針を決めて取り組んでいる。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人が安心・安楽で暮らせるよう、家族・職員・医師で対応について検討し可能なこと・不可能なことを十分話し合い、連携を図りながら支援している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えるダメージを理解し住む場所が変わっても、本人を取り巻く環境ができるだけ変わらぬよう、相互で連絡・引継ぎを十分行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの自尊心を傷付けないよう言葉掛けや対応を心掛けている。プライバシーポリシーについての規約を定め、守秘義務の大切さを職員が周知しており、情報や記録物は外部の方から、目に触れないよう保管している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>その方に合わせた働きかけ(言葉掛け・環境作り)で自己決定ができるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な流れはあるが、一人ひとりのペースや希望を優先し生活ができるよう支援している。馴染みの習慣を大切に、買い物へ行ったり、散歩をしたりできる。また、精神状態や体調にも合わせて支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理容や馴染みの美容院を選択して利用できるようにしている。また、本人の好みに合わせた髪型や服装がその人らしさが継続できるよう支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>畑での野菜作り・買い物・調理・盛り付け・片付けなど食に関係することは、入居者の力を発揮して関わっていただき、食べることへの楽しみを持てるよう支援している。また、職員が寄り添って同じものを食べ、食に関する話題を提供し楽しみながら食べることができる。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>新聞やチラシなどから、好みの食べ物・季節の食べ物を選び買い物に出掛けることができ、日常的に楽しめるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、そのパターンや量に合わせ、下着選びやトイレ誘導を行っている。本人の自尊心を損なわぬような言葉掛けや対応を心掛けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴の基本ベースはあるが、本人の希望や状態に合わせて入浴ができるよう体制を整えている。また、気の合った人同士が入浴できるよう配慮している。時々、入浴剤を使用したり富士山の写真を飾ったりして気分を変えて楽しく入浴できるようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	職員は、入居者一人ひとりの生活習慣や体調・精神状態を把握しており、その方に合った休息が安全にできるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、一人ひとりの力を発揮できる事を把握しており、張り合いや喜びが日常で感じられるよう、役割・外出・趣味などを促している。また、行った際は必ず感謝の気持ちや行ったことの成果を認めるような言葉掛けを行うよう心掛けている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを使うことでの安心感・気分転換・張り合いを得られることを職員は理解しており、能力・希望に応じて所持していただき、買い物をしている。また、管理方法について家族と取り決めを行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者一人ひとりの希望や体力に合った外出先・外出方法を把握しており、日常的に戸外へ出掛け、気分転換や季節を感じている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	新潟の情報誌を見たり、昔行ったことがあり、また行きたい場所を入居者の方と一緒に話し合いながら計画し実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者一人ひとりの希望や能力に応じ支援している。職員が写真入の便箋を作成し遠方にいる娘さんへ手紙を書いたり、様子が伝わるよう工夫している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者が気軽に過ごせる様環境作りを行っている。訪問時間の制限もなく、職員もいつでも受け入れる姿勢を持って対応している。孫やひ孫と遊べるようおもちゃなども用意してある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがあり、職員は身体拘束がどんなことであるか・どんな影響があるかを理解しており支援している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることによる閉塞感・不安感や地域の方が入りにくいことを職員は理解しており、日中は鍵を掛けない対応を行っている。日曜日のみ、1階がお休みであり、防犯上の理由で施錠している。インターホンで対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者一人ひとりの動きやサインをさりげなく常に見守っている。また、早期対応ができるよう心掛けている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	できるだけ生活用品は自然に配置し、石鹸に網を掛けたりして、危険を防ぐ配慮を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアル作成・勉強会を開催し認知症高齢者、及び入居者一人ひとりの予想できる事故の知識や対応を学び、事故防止や早期対応ができるように努めている。日頃からヒヤリハットシートを活用し、話し合いを行い事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が急変や事故発生時の対応ができるよう、救急救命講習を受けている。また、応急手当・初期対応のマニュアルがあり、定期的に勉強会を開催している。		入居者の病気の多様化に対応出来るよう、更なる知識の獲得や訓練を職員全員で取り組んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練及び総合訓練を行っている。また、現在の入居者の予想される動きを話し合い、その対応についても検討している。地域の方にも訓練に参加していただき、入居者の様子を把握し、職員だけでは限界がある事を理解し協力的である。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状態と生活において起こりうるリスクについて家族へ随時説明し、その対策を話し合い、お互い納得のうえ支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	健康チェック表があり、一日の体調が一目で把握することができる。また、職員は、入居者の日々の状態を把握しており、小さな変化や異変に気付くことができる。小さな変化でも記録に残すようにしており、パソコンで容易に検索もでき経過をたどることができる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者一人ひとりの服薬の種類・作用・副作用を理解している。理解できるよう、薬袋に作用・副作用の説明をつけ、配役時に必ず目を通せるように工夫している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は排便チェック表を活用し、排便のサイクルを把握している。下剤をできるだけ使用しないよう、ヨーグルトや食物繊維の多い食材を取り入れたり、体操やデイレク参加で適度な運動を促すなど工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食イソジンうがいを促している。個々の能力に合わせ支援している。訪問歯科診療が定期的であり、口腔ケアを受け、常に清潔を保つことができる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者一人ひとりの食べる量や習慣、嚥下状態や咀嚼状態、病気上の注意事項を把握しており、一人ひとりの運動量・体調に合わせた支援を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、予防・早期対応ができるようにしている。外来者のも予防の意義を理解していただき、うがい手洗いの協力をお願いしている。また、日常の様子観察を行い早期発見ができるよう心掛けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔を保持する為、各種の消毒方法が決められており、定期的に清掃を行ったり、食器洗浄機を使用し清潔保持に努めている。食材は毎日使う分だけ仕入れできるだけ新鮮な物を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームの所在が2階と分りづらいが、看板を6箇所設置している。ぬいぐるみや生け花を置き、温かい雰囲気を作り出せるよう工夫している。また、職員も笑顔で対応することを心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画・保育園児からのプレゼントが飾ってあり、季節感を取り入れている。電気については、場面に合わせた明るさに調節している。(例えば、夜<余暇<食事)		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせたり、気の合った同士が過ごせるよう、家具を配置している。認知症高齢者の不安な気持ちを軽減できるよう、他の方が視界に入りづらいが気配が感じられるよう配置を工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れた好みのものに囲まれて生活をする安心感について説明をし、理解と協力を得て、道具や家具を配置するよう努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者に合わせた温度管理を行っている。また、こまめな換気に努めている。便失禁時は、消臭剤を活用しすばやくにおいが消えるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ杖や補助具を使用せず生活ができるよう、家具の配置を工夫している。(例えば、靴の脱ぎ履き時、ソファーにつかまれるよう配置。長い廊下は、一旦休憩が取れたり、手をつけるようにソファーを配置。)		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が入居者一人ひとりのわかるこ力の範囲を把握しており、一人ひとりにあったトイレの呼び方の看板を掲示したり、居室に表札を掲げたり工夫している。また、混乱を防げるよう様子観察を行い、こまめに対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダが広く、散歩にいつでも出れる為、気軽に楽しめるようになっている。また、プランターを置いたり、雪だるまを作ったり、季節感を感じれるよう工夫している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の身体機能・精神状況を把握し、それに見合った環境整備が整っている。介護設備や道具ではなく、家具の配置によって自然な形で身体機能をカバーしたり、精神的不安を軽減できる工夫を行っている。

記録にパソコンを使用し生活記録やバイタル記録などを入力し、統合的に管理し、職員はいつでも見ることができ、状態の把握や分析材料にしたりしケアに活かしている。また、短時間で入力・確認が行え、記録時間の短縮化を図り、その分ケアに活かせる時間がたくさんある。

母体法人が保育園を運営しており地域で長い歴史を持つことや、住宅地であることの利点を活かし、地域住民・近隣保育園児・ボランティアとの交流が盛んである。センター方式シートを活用し、個々の馴染みの生活を実現できるよう、地域・家族・職員が統一の意識で取り組んでいる。